

科目名	真言密教講読演習H			学期	後期	単位数	2	担当者	北川真寛
副題	真言密教の儀礼の解説と体験（上級篇）								
ナンバリング	M3-01-298	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,5

### 授業の目的と概要

真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験するために、真言密教における実践行を実際に体験する。

### 授業の到達目標

- ・1200年の歴史を有する真言密教における実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。
- ・真言密教の読経や声明、特に在家用の読経について学び、実際に読誦できるようになる。
- ・真言密教の重要な儀礼である授戒や灌頂について学び、正しく理解する。

### 授業計画

1. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（2）—
2. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（3）—
3. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（4）—
4. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（5）—
5. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（6）—
6. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（7）—
7. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（8）—
8. 真言密教の読経—陀羅尼の解説と読誦—
9. 真言密教の写仏—体験—
10. 高野山の精進料理—解説と実食—
11. 真言密教の声明—解説と実唱（2）—
12. 真言密教の声明—解説と実唱（3）—
13. 真言密教の瞑想法—解説と実修（2）—
14. 真言密教の戒律—解説—
15. 真言密教の灌頂—解説—

### 準備学習（予習・復習）・時間

- ・事前学習として、真言密教講読演習I（真言密教の儀礼A）で学んだことを復習しておくこと（30分）。
- ・事後学習として、特に実践した読経などをスムーズに唱えられるように読誦しておくこと（60分）。

### テキスト

- ・『仏前勤行次第』（高野山出版社、1997年、440円）・坂田光全『真言宗在家用『仏前勤行次第』の解説』（高野山出版、2016年、1,515円）を用いる。両書の入手方法については、講義初回に応相談。
- ・その他は、講師が配付資料を用意する。

### 参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

### ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）講義での実践行に参加する。
- （B）講義での実践行を完遂できる。
- （A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
- （S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

### その他

- ・実際に体験して学ぶこと（アクティブ・ラーニング）を中心にした講義である。
- ・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。
- ・別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）。
- ・本講義受講の絶対条件とはしないが、「真言密教講読演習I（真言密教の儀礼I）」の講義内容を前提とするため、同講義をあらかじめ受講しておくことが望ましい。

### 実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。